

## 研修プランB 4

# 今後の取組を可視化し日常的で協働的な改善につなげる

■目的	日頃の取組を省察し、互いの今後取り組みたいことを可視化することにより、授業改善等を日常的で協働的な取組につなげるための研修会です。
■対象	校内
■時間	30分
■形態	全体→個人→全体
■準備物	<input type="checkbox"/> 模造紙（1枚、概念化シート例：スライド番号4参照） <input type="checkbox"/> 付箋（5cm × 7.5cm、1色：緑色、人数分×8枚くらい） <input type="checkbox"/> 黒サインペン（人数分） <input type="checkbox"/> 画鋏かテープ（模造紙を貼るために使用）

## ●研修プランについて

○研修の具体的な目的に応じて様々な場面に応用可能

（例1）学校として育成したい資質・能力を具現化するための手立てについて

（例2）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について

（例3）カリキュラムデザインを行う際に留意して取り組みたいことについて 等

※研修の目的に応じて、記入した付箋をKJ法によって分類、整理することも考えられる。

○授業研修会や講師を招聘しての各種研修会、講演、発表等の終末に位置付けることも可能

○学校等の実情に応じて時間を短縮して行うことも可能

## ●研修

流れ	進め方	留意点等	スライド 番号
1 研修の説明 【全体】（3分）	○目的と流れについて伝える。	○目的は上記「■目的」参照 ○流れは左欄「流れ」参照	1 2
2 授業改善で取り組みたいことを記入 【個人】（7分）	○今後の取組のキーワードを含んだ文章で記述するように促す。	○付箋記入時は次の点に留意する。 ・単語ではなく単文で ・黒サインペンを使って ・1枚の付箋に1項目 ・協働的な取組につなげるために付箋の右下に記名 ○本研修前に授業研究会等が行われている場合には、他グループの成果物（他者の考えが可視化されたもの）等を自由に見に行くことで新たな気付きを得、自分の今後の取組に反映させていく等の工夫も考えられる。	3

<p>3 省察した内容を 全員で可視化 【全体】(10分)</p>	<p>○記入した付箋を概念化シートに貼るように伝える。</p> <p>○自分の取組と他者の取組を比較して見ることができる場面を設定する。</p>	<p>○縦軸に個へのアプローチと集団へのアプローチ、横軸に「現在取り組んでいること」「今後取り組みたいこと」等とし、全校で1枚の模造紙（概念化シート）に貼る。</p> <p>○概念化シートを用いて互いの取組を可視化し、それを基に互いに質問したり、質問に答えたりする。</p> <p>○ファシリテーターが、教科を超えた取組や学年を超えた取組等のつながりについて、研修の姿から価値付ける。</p>	<p>4 5</p>
<p>4 感想の交流と今後の方向性の共有 【全体】(10分)</p>	<p>○何人かの方に感想の発表を促す。本研修を今後の取組につなげていくことができるようにファシリテートする。</p>	<p>○自分の取組と他者の取組を比較して感じたこと等について感想交流、発表を促す。</p> <p>○本研修を日常的な取組につなげるために、概念化シートを職員室内に掲示しておくことを伝える。</p> <p>・スライド番号6の概念化シートの活用例参照</p> <p>○取組状況に応じて付箋を移動したり、新たな取り組みを記入し付箋を追加したりしてもよいことを伝える。</p>	<p>(6) 7</p>

### ●研修後

- 概念化シートを基に、互いの取組について質問したり、質問に答えたりする場を意図的・計画的に短時間で設けていく。
- 管理職、教務主任、研究主任、教科主任、学年主任等が、日常的に互いの取組状況をつないだり、価値付けたりする。
- 参考にしたい取組をしている方がいたら、短い時間でも授業（児童・生徒の姿）を参観させていただく等の取組も柔軟に行う。